

【生薬名】竹茹 *PHYLLOSTACHYSIS CAULIS IN TAENIAM*

【起源植物】ハチク *Phyllostachys nigra var. henonis*

マダケ *P. bambusoides*



【科名】イネ科Gramineae

【別名】竹茹でも良い

【薬用部分】稈の外層を削り取った内層

【主成分】トリテルペノイド

【薬性】気味は甘微寒、帰経は肺胃に属す

【効能】●清熱・化痰・止嘔

●主に胃熱による嘔吐に用いる

●熱痰による抑鬱状態・煩悶・不眠・驚き易いなどには温胆湯

●中枢抑制作用

●抗炎症作用

●抗腫瘍作用

●C-AMPを分解するホスホジエステラーゼ活性を阻害する作用

●

【出典】●竹茹 嘔を止め、能く寒痰を除き、胃熱嗽嘔、不寐安歇。(薬性歌)

●淡竹皮茹、微寒、嘔哕、温気、寒熱、吐血、崩中、溢筋を主治する(名医別録)

●嘔哕、寒熱、肺痿、唾血、傷寒労復を主る(古方薬議)

【備考】●竹茹は胃熱をさまし、淡竹葉は心火をさまし煩熱を除く

●

【処方例】●竹茹温胆湯、清肺湯、温胆湯、竹皮大丸